

1. 実況上の着目点

① 前線が華中～日本海西部～東日本にのびており、前線上の北陸沖には低気圧、対馬近海にキंक。前線付近やその南では、局地的に雷を検知し激しい雨を解析している所がある。また、前線北側の北・東日本ではやや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

② 南西諸島周辺では小規模な対流雲が散在しているが、非常に激しい雨を解析、発雷も検知。沖縄本島地方では竜巻注意情報。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、16日夜には東

北太平洋沖に進む低気圧の東側で北上、西側で東・西日本を南下する。低気圧は上層トラフの深まりに対応して16日夜から発達が加速し、17日朝には日本の東で海上暴風警報級（17日の最大有義波高6m）となる。低気圧・前線付近やその南では大気の状態が非常に不安定で、16日夜までは雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。西～北日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きく、強い風が吹き波が高く、太平洋側では低気圧が遠ざかってもうねりが到達し、しけとなる所がある。北～西日本では17日にかけて強風や高波に注意。

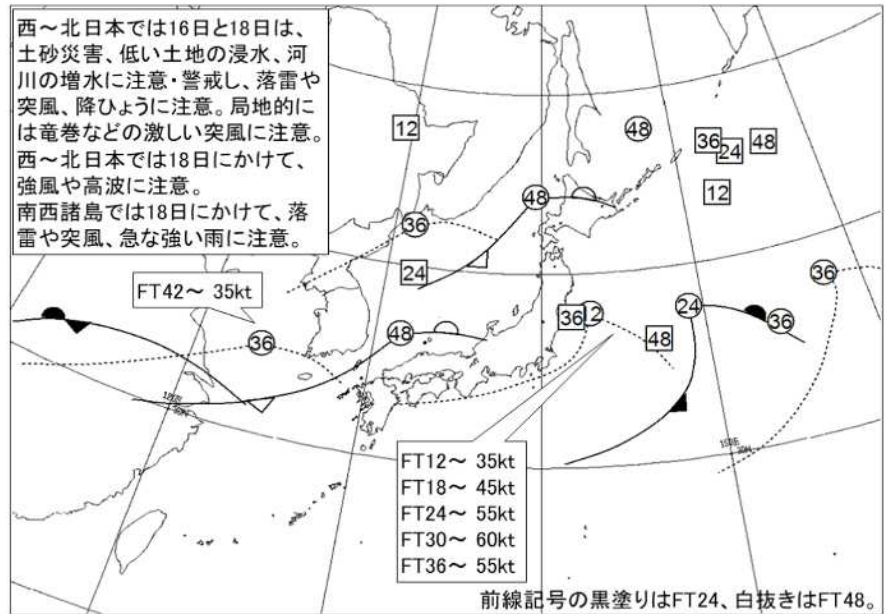
② 18日には、500hPa 5580m付近のトラフに対応し、前線を伴った低気圧が日本海北部から北海道付近へ、500hPa 5820m付近のトラフに対応し、別の前線を伴った低気圧が黄海から日本海へそれぞれ進み、北～西日本は温度差の大きな前線帯からなる深い気圧の谷に入る。下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～西日本では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。北・東日本は強風や高波にも注意。

③ 500hPa 5880m以上の帯状の高気圧が日本の南にほとんど停滞。北緯30度付近から南は平年よりも高い高度（気温が高い）状態が続く。南西諸島と西日本の一部では18日にかけて真夏日の所が多い。高気圧中心から遠い沖縄地方を中心に、下層暖湿気の影響で雷を伴った強い雨の降る所がある。南西諸島では18日にかけて、落雷や突風、急な強い雨、局地的には竜巻など激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。18日の低気圧・前線の予想位置等には不確かさがある。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで):東北4、関東・伊豆諸島・九州北部3m。③ 高潮(明日まで):東日本で注意報基準超過の所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はありません。



主要じょう乱解説図